

Meaning Focused Learning を取り入れた言語活動開発についての研究

～基礎的英語運用力を育成するために～

外国語科 熊谷優一

筑波大学附属坂戸高等学校は平成 26 年にスーパー・グローバル・ハイスクールに指定され、1 年次生を対象として基礎的英語運用力を育成するための言語活動開発を研究課題の一つに設定した。本研究は『コミュニケーション英語 I』において、Meaning Focused Learning を取り入れた言語活動 Imaginary Skit について、その成果と課題を授業アンケートの結果とともに考察するものである。

キーワード 英語教育 Meaning Focused Learning 言語活動 コミュニケーション英語 I

1. はじめに

筑波大学附属坂戸高等学校（以下本校）は平成 26 年文部科学省よりスーパー・グローバル・ハイスクールに指定され、グローバル人材を育成するに当たり外国語を運用することへの苦手意識や、外国語学習に対する動機づけの低さを課題の一つにあげた。本研究はそれらを克服するためにコミュニケーション英語 I において、基礎的な英語運用能力の育成を目指したカリキュラム開発の一環として位置づけられている。

新学習指導要領（2008）では英語の「授業は英語で行うことを基本とする」と公示され、「多様な場面における言語活動を経験させながら、(中略) 学習内容を繰り返して指導し定着を図る」よう述べられている。学習指導要領解説（2010）では「必要に応じて、日本語を交えて授業を行うことも考えられる」としながらも、英語で授業を行うことは強調されている。しかしながら、『平成 25 年度公立高等学校・中等教育学校（後期課程）における英語教育実施状況調査（2016）』によれば、コミュニケーション英語 I の授業において教員の英語使用状況が半分未満の比率が約 50%、学習者の英語による言語活動の時間が半分以下である比率が約 60%に達しており、現学習指導要領の理念が達成されているとは言い難い。英語による授業実施を妨げている要因は大学入試対策への要望、学習者または指導者の英語力への憂慮など様々な想像するに難しくないが、経済界¹など社会的にも実

用的な英語運用力育成に対する要望は年々強まっている。

以上のことから、本研究では持続可能な英語による言語活動の開発を研究課題に設定した。本年度は特に、会話をいかに始めて、話題を展開し、終わらせるかを英語で行えることを重点学習項目に据え、Meaning Focused Learning を取り入れた言語活動 Imaginary Skit を実施した。本稿では Imaginary Skit を中心にした言語活動を総括し、学習者の各言語活動に対するアンケート調査結果を考察することにより成果と問題点を明らかにする。

2. 研究対象者

本研究は本校コミュニケーション英語 I を受講する筑波大学附属坂戸高等学校 1 年次生 2 クラス 80 名を対象とした。文部科学省が平成 27 年 3 月に発表した『平成 26 年度英語力調査結果（高校 3 年生）の速報（概要）』によると、調査対象とした 7 万人の高校 3 年生の 4 技能の英語力はいずれも 7 割以上が英語検定試験に換算すると 3 級以下としている²。日本英語検定協会の英語能力判定テストの結果では本研対象である学習者も同様の分布を示している³。

対象クラスの学習者は英語によるコミュニケーション

ている。

² 「平成 26 年度 英語力調査結果（高校 3 年生）の速報（概要）」(http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/)ではインプットに関わる「聞くこと」「読むこと」に比べ、アウトプットに関わる「書くこと」「話すこと」に関する英語力は 10%強低いという結果が出ている。

³ 1 年次生を対象に 5 月、10 月、3 月に実施した。テスト結果は受験者の英語力が英検のどの級に達しているかで示される。

¹ 経団連は「「グローバル化時代の人材育成について（2000）」、「グローバル人材の育成に向けた提言（2011）」「グローバル人材の育成・活用に向けて求められる取り組みに関するアンケート結果（2015）」で英語を中心とした外国語運用能力の育成強化を求め

活動には積極的だが、個々人の学習者を見ると圧倒的に語彙力が不足しており、十分なインプットがないとアウトプットに結びつかないことが多い。また、英語によるコミュニケーション活動を重視する授業といっても、学習者にとって自分自身の趣向や意見を述べることには抵抗があるようで、活動が鈍化する傾向が見られた。

そこで、教科書の内容であれば、学習者の心理的には安全な話題として活動を展開できることから Meaning Focused Output 活動のひとつとして Imaginary Skit を授業に導入した。この活動は学習者の英語力や指導者の経験によらず展開でき、特別な準備物を要しないという点で持続可能な言語活動だといえよう。

3. 言語活動概要

ここでは Imaginary Skit を中心に授業で実施した言語活動を説明する。以下は授業で実施した言語活動のリストである。①～⑤の活動に日本語での文法説明、板書の時間を加味して各パート 1.5～2 時間を配当した。⑥についてはすべてのパートを学習後、授業の進行度合によって 2.5 時間（最大 3 時間）を配当した。①⑥が Meaning Focused learning による活動、それ以外が Language Focused Learning による活動である⁴。

- ①Word Explanation
- ②英→日 Sight Translation
- ③日→英 Sight Translation
- ④Shadowing
- ⑤Dictation
- ⑥Imaginary Skit

3.1 Word Explanation

Meaning Focused Output の言語活動である。新出単語をこれまでの学習知識や例示、同意語や反意語の提示など様々な戦略を用いて英語で説明する。ペアワークで行う。指導者が単語を指定し、一方の学習者がもう一方の学習者に英語で説明し、どの単語が説明されているかを当てる。配当時間は 5～10 分程度である。

⁴ 定義や活動例の詳細は Nation, Newton(2009)、Nation(2009、2013)を参照されたい。Meaning Focused Learning は日本では一般的に Focus on meaning、Language Focused Learning は Focus on form と使われているようである。村野井(2011, p59) はメッセージのやりとりを言語形式に払って行う活動を Focus on form、言語形式には注意を向けず、メッセージのやりとりのみを行う活動を Focused on meaning と定義している。

3.2 英→日 Sight Translation

Language Focused Learning の言語活動で、ペアワークで行う。一方が英文を読み、もう一方がその英文を聞いて日本語に翻訳する。配当時間は 5～10 分程度である。

3.2 日→英 Sight Translation

3.2 の活動を日本語から英語で行う。

3.3 Shadowing

Language Focused Learning の言語活動である。折に触れて音読を行うが、本活動は学習した本文を音声のみを頼りに繰り返す 1～2 分程度の活動である。状況や本文の内容に応じてペアワークで行ってから教科書付属の CD で行う。

3.4 Dictation

Language Focused Learning の言語活動である。音声聴いて英語を書き取る。5～10 分程度を配当した。

3.5 Imaginary Skit

Meaning Focused Output の言語活動である。ペアワークで行う。これは教科書本文に登場する人物同士が与えられたシチュエーションの下、会話をするといい、いわばロールプレイのようなものである。

この活動は原稿作成、発表、原稿の振り返りと 3 つの過程から構成されている。原稿作成には授業の進み具合によって 0.5 時間～1 時間、発表には 1 時間、原稿の振り返りには 1 時間を配当した。

原稿作成の段階では、学習者は 2 人ペアになり、役割を決め、10 往復の会話のやりとりを英語で作る。この際、使用する語彙・文法に一切規制を設けない。設けないことで学習者が使いこなせる表現・語彙を選択し、本文の内容を再構築することができる。

本活動導入当初は本文学習後にスキットの登場人物や場面を提示していたが、回数を重ねるうちに、次第に学習者がスキット内容決定に参加するようになった。最終的には本文学習前にスキットのシチュエーションについて提案を募り、複数のシチュエーションのうち各ペアが選択する仕組みが出来上がった⁵。

できあがった原稿は暗記し、場に応じた声の大きさ、

⁵ 新しい単元に入る前に英→日 Sight Translation のプリントを課題として課しているため、内容のほとんどは理解した上で新しい単元を学習する。本文の日本語訳は授業では取り上げない。

表情を含め、登場人物になりきってグループ内で発表する。発表の時間は1時間を配当した。授業冒頭ペアで練習時間をとったあと、各グループでの活動から全体の活動になるが、指導者はファシリテーターに徹し、グループ活動を支援する。

発表の手順は以下のとおりである。①～④までがグループ発表、⑤～⑦がクラス発表である。

- ①6～8人のグループをつくる。
- ②各グループで1名MCを指名する。
- ③MCが進行役となって発表を仕切る。この際、発表者以外の学習者はワークシートに暗記度、内容、流暢さ、創意工夫、パフォーマンスの5項目を評価し、最後にコメントを書き加える。
- ④各グループから1ペアを選出する。
- ⑤各グループのMCの中から1名が指名され、全体の進行を担当する。
- ⑥各グループの代表ペアがスキットを発表する。発表者以外の学習者は③と同様の活動をする。各発表終了後にMCは聴衆にコメントを求める。
- ⑦最後に指導者が発表についてコメントし、総括する。

最後に原稿を振り返る課程である。この過程はパソコン室などインターネットに接続できる環境で行われる。ペアのうち片方がGoogle翻訳を利用し、英語から日本語に翻訳したときに意図したとおりの英文ができているかをチェックする。もう一方はワープロソフトで提出用文書を作成する。その二つの作業が同時並行で行われる。指導者はCALLシステムなどを活用し、必要に応じて学習者に助言を与える。提出されたデータは筑坂口語コーパスとして蓄積され、誤用分析され、その後の指導に反映される。

あるペアが提出した最終原稿を参考資料1に記しておいた。該当単元は「World Trek I English Communication (東京書籍)」のLesson 9 Potato Storiesである。このペアはPart 1の内容をもとにインカ帝国で育てられていたジャガイモがスペイン人兵士が本国に持ち帰ったことによりヨーロッパにジャガイモが伝わった過程を描いている。Part 2ではヨーロッパ人がジャガイモの食べ方を知らずに、根ではなく葉を食べたことにより病気になったことが話題になっているが、その内容がスキット後半に盛り込まれており興味深い。

このように学習者は本活動を通して、教科書本文で学習した内容を再理解し、再構築し、表現活動に結びつけている。スキット作成時には登場人物のキャラクターを設定し、それが言動に表わすといった創造性も重要な要素である。詳しくは4で述べるが、数ある活動の中で最も学習者の満足度が高く、特に英語を苦手としている学習者から教科書の内容を理解していないとSkitを作れないことから、試験対策にも有効だという肯定的感想が多い。また、平成27年2月にImaginary Skit発表時を公開した際の授業の参観者によるコメントも好意的なものが多かった⁶。

本活動の優れているところとしては、①指導者にとって準備にかかる負担が少ないこと、②学習者の英語力を問わず主体的に活動に参加できること、③発表は暗記することを基本とし、何度も発表することを通して流暢性が養われることなどを挙げることができ、持続可能な英語による言語活動だといえることができる。

4. アンケート調査結果考察

ここでは研究対象者80名に対して行った授業で実施した言語活動に対するアンケート調査の結果を考察する。指導者に配慮してか、否定的意見は見られなかったが、それぞれの項目については特徴的な結果が現れた。

4.1. 英語学習に有効な言語活動について

授業で実施した言語活動が英語を学習する上で役に立っているかについての満足度(複数回答)は以下の表1のとおりである。Language Focused Learningの活動であるShadowingとDictationの満足度が低いが、これら二つの活動は難易度も高いことが主要要因として考えられる。また活動は完全に個人で行われ、困難を感じても支援を受けることができない。

そのほかの活動はLanguage Focused Learningの活動であるSight Translation、Meaning Focused OutputであるWord Explanation、Imaginary Skitともに満足度が高く現れている。共通しているのはペアワークであり、協同学習できる点である。これらすべての言語活

⁶ 主なものを挙げると以下のとおりである。「生徒が主役として自主的に積極的に参加していた。生徒の臆しない態度が印象的。ユーモアを感じた。授業の流れがスムーズであった上、生徒がみな楽しそうに積極的だった。各グループにおける生徒の活動もとても良く勉強になった。英語の力をつけることができる授業であることがよくわかった。」

動は Imaginary Skit に向けた pre-output activity として有機的に構成したつもりではあるが、リスニングによる活動である Shadowing と Dictation に満足度が低いことを学習した内容を聞き取る際に困難を抱えていると解釈すると、Imaginary Skit の発表の際にはほかのグループの発表内容を理解できているか不安が残る。

表1 「英語学習に有効な言語活動（複数回答）」

言語活動	回答
Word Explanation	65.0%
英→日 Sight Translation	66.3%
日→英 Sight Translation	57.5%
Shadowing	30.0%
Dictation	36.3%
Imaginary Skit	57.5%

4.2 楽しかった言語活動

授業内容が楽しいか、そうでないかが学習者の学習動機に強く関与していることを指導者は否定することはできない。指導者としては身につまされる思いではあるが、英語の学習動機に楽しいと思えるかどうかが少ないから関与すると捉え、あえて調査項目に加えた。表2は授業で実施したどの言語活動が英語を学習する上で楽しかったかについての満足度（複数回答）である。

Meaning Focused Output である Imaginary Skit に対する満足度が最も高く、続いて同じく Meaning Focused Output である Word Explanation が続く。Language Focused Learning の活動はどれも 10～15%と満足度は低いことがわかる。Sight Translation は4.1で考察したように、役には立つと考えるが、その活動が楽しいとは思わないことを示しており、英語学習の動機付けの活動としての力は弱いといえる。一方で Meaning Focused Output の活動二つは英語学習に有効であり、楽しいという結果が現れた。これは言語そのものに焦点を当てた Language Focused Learning に比べ、学習者の英語力に基づいて言語を運用することに焦点を当てた Meaning Focused Learning が学習者の英語学習に対する動機付けとして極めて有効なアプローチであることを示している。

これら二つの英語による表現活動に対する学習者の肯定的評価は、英語による言語活動への積極的欲求を表すものであるとともに、指導者にとっても英語による授業展開を促進させるに十分な結果といえよう。

表2 「楽しかった言語活動（複数回答）」

言語活動	回答
Word Explanation	46.3%
英→日 Sight Translation	15.0%
日→英 Sight Translation	15.0%
Shadowing	11.3%
Dictation	10.0%
Imaginary Skit	78.8%

4.3 Imaginary Skit がもたらした効果

アンケート調査の最後に Imaginary Skit の活動が学習者の英語学習にどのような効果をもたらしたかについて聞いた（複数回答）。主なものについて考察する。

残念ながら「英語の勉強が楽しくなった」と答えたのは 25.0%に留まったが、最も高かった回答は、「教科書の内容の復習になった」で 65.0%、続いて「教科書以外にも面白い表現をどう取り入れるか考えるようになった」が 41.3%、「教科書を読むときに Imaginary Skit でどんな内容で作るか考えながら読むようになった」が 38.8%、「教科書の表現や文法をどう取り入れるか考えながら授業を受けるようになった」が 37.5%と続いた。これらの回答は Imaginary Skit を実施したことにより、英語学習の視野が広がり、主体的に英語学習に取り組むようになったこと、教科書等の内容が単なる言語情報・知識として学習されるのではなく、意味のある内容として捉えられたことを示している。つまり、Sight Translation などの Language Focused Learning の活動が、Imaginary Skit を実施したことにより、Meaning Focused Input の活動に移行してきているということを表している。

4.3 Imaginary Skit を作成する際に必要なこと

このことについては自由回答で聞いた。Imaginary Skit の背景となっている教科書本文に対する理解、語彙力、文法に対する理解など英語表現に関するものに加え、どのようなスタンスで原稿を作成するかについての視点から想像（創造）力、ユーモア、パートナーとの協力、積極性などが挙げられた。一方で発音に関するコメントが一切ないことが興味深い。実際、原稿を見ると、本文内の発音が難しい単語は発音が平易な単語に置き換えられる例が多く見られた。学習者は Imaginary Skit を作成する際、発表を見越して戦略的に取り組んでいることがわかる。

4.4 Imaginary Skit を発表する際に必要なこと

このことについては自由回答で聞いた。発音・イントネーションなど英語運用に関わることに加え、演技力、記憶力、ジェスチャー、度胸・勇気（恥を捨てる）など伝達に関することなどが多く挙げられた。

4.5 その他

自由記述で Imaginary Skit についての感想を聞いた。「自分が言いたいことを英語で話すために単語や文法を使うので、覚えやすく、忘れにくい」「英語を勉強している感覚ではなく、英語でふざけている感じがする」「おかげで英語が楽しくなった」といった Imaginary Skit を実施したことに対する肯定的なコメントが多く見られた。

以上のように、学習者のアンケートによって、授業内で行った言語活動については、学習者は個人で取り組むことよりも他者との取り組む方を嗜好し、学習者自身の創意工夫が可能な活動に楽しみを見いだしているようだ。その中でも、Meaning Focused Output 活動である Imaginary Skit に対する満足度が非常に高い。Imaginary Skit は教科書本文の内容を再構築することによって理解を深め、授業内外において学んだ表現を実践する機会になっており、学習者の英語学習に対する動機付けにも強く作用している。

5. おわりに

本研究では持続可能な英語による言語活動として Meaning Focused Out である Imaginary Skit を実施し、学習者の高い満足度を得るとともに英語学習の動機を高める効果があった。その他の言語活動とも有機的に結びつき、Language Focused Output の活動が Imaginary Skit の pre-output activity として機能した。その活動は以下のようにまとめることができる。

- ①教科書本文の内容をもとに、一定のシチュエーションで起こると予想される二人の登場人物の会話を作成・発表する問題解決型の言語活動である。
- ②想像力（創造力）を要する協同学習である。
- ③使用する文法・語彙に拘束されず、意味の伝達を目的とした英語による表現活動である。
- ④学習者の英語力を問わず主体的に活動に参加できる。
- ⑤作成した原稿を暗記し、発表を繰り返すことにより流暢性が養われる。

もちろん本活動は最初からうまくいったわけではない。当初は英語で授業することに対するレディネスにばらつきがあり、ついてこれない学習者が多数存在し、言語活動そのものが滞った。そこで授業はすべて日本語で進行し、授業で取り組むことへのスキームを形成した後、徐々に英語で授業を進行する比率を上げていった。英語のアウトプット活動については、指導者の英語使用が学習者の表現活動のモデルとしてモニターされることから、英語による発話が奨励されることはまちがいない。

Imaginary Skit の活動が定着すると、学習者は様々な創意工夫をこらした。教科書以外の表現を探し、Skit に盛り込もうと学習視野が広がりを見せた。

最後に今後の課題であるが、活動を開発し実施したが、評価についてはほぼ手つかずであった。ペーパーテストではなかなか点数をとれない学習者が、クラス発表で何も見ずに MC をしたり、登場人物になりきって英語でギャグを入れながら堂々と発表したりする中、そういった学習者の英語力を評価する方法には未だ解決を見ていない。今後の重要課題として研究を継続したい。

【参考・引用文献】

- Paul Nation (2013). 「What Should EFL Teachers Know?」. Compass Publishing.
- Paul Nation, Jonathan Newton (2013). 「Teaching ESL/EFL Listening and Speaking」. Routledge.
- 村野井仁 (2010). アウトプットと第二言語習得. 「東北学院大学論集 英語英文学」95号・51-64 ページ.
- 文部科学省 (2015). 「平成 26 年度 英語力調査結果 (高校 3 年生) の速報 (概要)」
(http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/)
- (社) 日本経済団体連合会 (2015). グローバル人材育成・活用に向けて求められる取り組みに関せうるアンケート結果.
(www.keidanren.or.jp/policy/2015/028_honbun.pdf)
- 中井弘一 (2010). 高等学校における「英語の授業は英語で行う」についての一考察. 大阪女学院大学紀要 7・33-53 ページ
- 文部科学省 (2008). 新学習指導要領
- 文部科学省 (2010). 学習指導要領解説

Imaginary Skit④ -Potato Stories-

<Situation> You can choose a situation below.

1) A skit between a Spanish soldier and an Inca

-A Spanish soldier wants to know about the vegetable which the Inca people grow and to bring it back to his country.

2) A skit between the king and a physician

-Antoine Parmentier, a physician, comes to the palace to ask the king for help. He wants to stop people's starvation.

<Imaginary Skit>

Spanish Soldier: OH, Look at that! An orangutans is eating a curious vegetable.

Inca: What?

S: OH!?! Orangutan speaks! Orangutan speaks!

I: You're so rude! I'm a human being and an Inca.

S: Ahahaha. Sorry. Sorry. By the way, you were eating a curious vegetable.

I: You don't know this. This vegetable has some secrets.

S: What?? Teach me.

I: NO! Because you insulted me.

S: You're foolish. I have a sword.

I: Oh, stop it. All right. I teach you.

S: OK. Thanks.

I: This is called potato. You can eat roots. Don't eat its leaves.

S: Why not?

I: Leaves have poison. So you will become sick after eating them.

S: I see. Do you know any other secrets?

I: Yes. It grows very well even in cold areas.

S: Rally? Our country suffers from starvation now and people died because crops failed by cold weather.

I: I see .Then, bring the potato to your country.

S: Oh, thank you. See you.

I: See you again.

S: (Seeing an Inca walk away) I forgot his advice that he said. Well. Don't mind it.

<Evaluation>

G	Points	Score	Total	Comment
1	Memory	5 3 1		
	Quality	5 3 1		
	Proficiency	5 3 1		
	Creativity	5 3 1		
	Performance	5 3 1		

1年 CEI アンケート

1. 授業内に行った以下の活動のうち、英語を学習する上で、役に立ったものすべてにチェックして下さい。

	Word Explanation
	英→日口頭翻訳
	日→英口頭翻訳
	シャドーイング
	デクテーション
	Imaginary Skit

2. 授業内に行った以下の活動のうち、英語を学習する上で、楽しかったものすべてにチェックして下さい。

	Word Explanation
	英→日口頭翻訳
	日→英口頭翻訳
	シャドーイング
	デクテーション
	Imaginary Skit

3. Imaginary Skit を作成する上で必要だと思われることは何ですか。

4. Imaginary Skit を発表する上で必要だと思われることは何ですか。

5. Imaginary Skit は英語の学習にどのような効果をもたらしましたか？

	教科書の内容の復習になった
	教科書を読むときに Imaginary Skit でどんな内容で作るか考えながら読むようになった
	教科書の表現や文法をどう取り入れるか考えながら授業を受けるようになった
	教科書以外にも面白い表現をどう取り入れるか考えるようになった
	授業以外で Imaginary Skit の内容をどうするか話題になった
	Imaginary Skit の発表が終わって、発表の内容について話題になった
	英語の勉強が楽しくなった
その他	